allcinema

チャイニーズ・ブッキーを殺した男（1976）

THE KILLING OF A CHINESE BOOKIE

メディア 映画
ジャンル 犯罪　ドラマ
製作国　アメリカ
色彩　Color
時間　107分
初公開日 1993/03/27
公開情報 東北新社＝シネセゾン提供／シネセゾン

【解説】

現在のハリウッド映画（もちろん、それはニューヨーク派やインディーズを気取ったメジャー作品も含む）には決して見られないもう一つのアメリカの姿が確かに刻印された、カサヴェテス作品には珍しく、１０７分で全ての決着がつく（傑作「グロリア」もまた然り）、胸のすくフィルム・ノワールの快作だ。２００７年６月にＷＯＷＯＷで１３５分のオリジナル版が放映された。

コズモ・ヴィテリ（ギャザラ）は場末のクラブ・オーナー。ＬＡの裏町の、小さいが活気を呈する店が彼の世界の全て。彼は少しでもよい芸を客に提供しようとショウのチェックに余念がない。出し物はストリッパーの踊りと、彼女らを従える怪しい芸人ミスター・ソフィスティケーション（カサヴェテスの盟友、脚本家Ｍ・ロバーツ好演！）のトーク。店を持つのに作った借金もやっと払い終え、ほっと胸を撫で下ろし、一国一城の主となった感慨に浸るコズモは、店の踊り子たちを連れて盛大に町へと繰り出すが、秘密クラブのポーカーで大負けし、マフィアに借金を作ってしまう。そこへそれを帳消しにする話が持ちかけられた。対立する大ボス、チャイニーズ・ブッキーを殺す計画だ。一度は断ったコズモだが、選択の余地の無いところまで追い込まれ、結局、犯行に及ぶ。しかし、組織は話を持ち込んだ時の約束を反古にして、コズモの命を狙い、彼は腹に一発喰らいながら店に戻る。開演なのに舞台には誰も出ておらず、コズモは楽屋でもめる芸人たちに割って入り、自信喪失のソフィスティケーション氏に優しく語りかける。そして、自ら舞台に上がると愛情をこめて仲間たちを紹介し、一人店外に出て通りに立つ。上着の腹からは血が滲み出つづけていた…。と語れば、悲劇的な話なのに、ユーモアが全編に漂って、なぜか楽しく観られてしまう。これは実際にご覧になって体験して貰うしかない、不思議な心地よさなのだ。

【クレジット】

監督	ジョン・カサヴェテス	John Cassavetes
製作	アル・ルーバン	Al Ruban
脚本	ジョン・カサヴェテス	John Cassavetes
撮影	フレデリック・エルムズ	Frederick Elmes
	マイク・フェリス	Mike Ferris
	アル・ルーバン	Al Ruban
音楽	ボー・ハーウッド	Bo Harwood
出演	ベン・ギャザラ	Ben Gazzara
	ティモシー・アゴリア・ケリー	Timothy Agoglia Carey
	シーモア・カッセル	Seymour Cassel
	アジジ・ジョハリ	
	メーダ・ロバーツ	
	アリス・フリードランド	
	アル・ルーバン	Al Ruban

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.